首途八幡宮

【伝説】

こじんまりした首途八幡宮は、旅の安全を祈る場所であり、この神社の安全祈願のお守りは旅行者の間で人気です。その伝統は、日本史上最も偉大な武士の一人と見なされている源義経（1159～1189 年）の物語に端を発しています。

義経の誕生後間もなく、源氏の長として天皇に仕えた武将であった父が、宿敵の平氏に殺害されました。身を隠しながら育った義経は、成長して好戦的な剣士になり、いつの日か平氏に復讐することを誓いました。16 歳の時、義経は裕福な商人の助けにより、東北（現在の岩手県内）の都市・平泉で勢力を誇っていた藤原氏の庇護を受けました。

その商人の屋敷は、現在首途八幡宮が建っている場所にあったと伝えられており、義経が平泉に向けて出発する前に安全を祈願したのがこの地でした。復讐を遂げたのは、その 10 年後のことでした。5 年間の戦争を経た 1185 年、源氏は平氏を討伐し、日本を統治した最初の武家政権である鎌倉幕府を立ち上げました。